

第13回

# 「自閉症に優しい社会」研究会

日時 : 2012年3月13日(火) 19時～21時

場所 : 金沢大学附属病院2階 カンファランスルーム

参加費 : 無料

報告 : 武居 渡先生 (金沢大学学校教育系)

## 障害の早期発見を支える療育システムの構築 — 新生児聴覚スクリーニングの事例から考える —

**報告要旨** 医療技術の進歩は目覚ましいが、ともすると技術のみが進行し社会システムが追い付いていないことがある。新生児聴覚スクリーニング検査(新スク)は、今から10年程前から始まり、生後1週間以内に産科で行われ、早期に難聴の有無がわかるようになった。しかし、新スクで発見された児を誰がどのように支援し、最終的に療育機関につなぐのかについてのシステムを整備する前に新スクの実施が始まった。そのため、本来、難聴を早期に発見し、早期に介入することで、子どもの言語力を補償しようといわれた検査が、逆に保護者を追い詰め、「子どもを抱っこできない」「母乳が止まった」など、子育てを困難にさせてしまっている事例が多く報告された。

本報告では、新スクの事例から、障害発見から精密検査、確定診断、療育機関の選択、療育開始への道筋を石川県ではどのように整備したのかについて報告し、あわせて聴覚障害が発見された児の保護者が何を不安に思い、何を望んでいるのかについて事例を通じて考えたい。そして、新スクで起こったことは他の障害についても起こりうると思われる。広汎性発達障害についても療育システムをどのように整備していくことが望ましいのか、意見交換をしたいと考えている。